

まちセンこの1年

今年で、阪神・淡路大震災から10年が経過し、復興のまちづくり事業も多くの地区で収束段階を迎えました。しかし、一部の地区では復興まちづくり事業は続いており、また新たなまちづくりの機運の高まりもあり、こうべまちづくりセンターでは今後も引き続き地域のまちづくり活動への支援を行っていくとともに、まちづくり学校の開催や調査研究活動も行います。

◆人材センターによる専門家派遣等

住民主体のまちづくりや震災からの復興をサポートするために平成16年度も「すまい・まちづくり人材センター」登録専門家の派遣やまちづくり協議会への活動助成を行ってきました。

・アドバイザー・コンサルタント派遣

派遣種別	件数
アドバイザー派遣(1次)	7件
アドバイザー派遣(2次)	7件
コンサルタント派遣	55件

・活動助成

助成内容	件数
まちづくり活動助成	48地区
空地の緑化活動助成	9地区

◆ワークショップ隊の派遣

地域での円滑な合意形成の手段として最近特に注目を浴びているワークショップの運営のお手伝いとして地域等からの要請によりワークショップ隊を派遣してきました。

派遣回数	延べ派遣人数
24回	87人

◆まちづくり学校の開催

3年目を迎えたまちづくり学校は、春の基礎講座と秋の専修講座を開催しました。平成16年度からは、新たに土木の学校の一環としてGコース「まちに刻(きざ)まれた土木を訪ねる」も開設しました。

まちづくり学校は、基礎講座と専修講座2コースを修了されますと卒業となります。

一般の学校と違い卒業、修了されても引き続き受講していただくことができます。

・基礎講座

参加者	修了者
61名	50名

・専修講座

	参加者	修了者
Aコース	32名	24名
Bコース	66名	52名
Cコース	27名	21名
Dコース	37名	22名
Eコース	33名	23名
Fコース	30名	18名
Gコース	31名	15名

・ 卒業者

16年度の卒業者	22名
上記のうち2度目の方	3名

◆復興まちづくりセミナー

まちセン研究ネット・特別シンポジウム

平成16年度のセミナーは、震災10年の一つの節目の年としてまちづくりセンター・研究ネットワークに参加されている研究会や神戸大学、阪神白地市民まちづくり支援ネットワークのご協力で多方面からまちづくりを考えるリレーシンポジウム「震災復興から都市再生へ」をテーマにひょうごまちづくりセンターと共催で開催しました。

開催日時	参加者
2月10日(木) ～14日(月) 9シンポジウム	530名

◆神戸の地盤研究会

神戸市内の地盤データベース「神戸 JIBANKUN」の維持管理、神戸の地盤に関する調査研究を目的とした「神戸の地盤研究会」の事務局を平成15年度より行っています。

地盤研究会についてはこれまでの成果を活かし、減災にも関連する調査研究活動を行うため、平成16年6月に「神戸の地盤・減災研究会」へ発展的に移行しました。

まちづくりセンターでは、地盤データベース「神戸 JIBANKUN」の運営を引き続き行います。

主な行事	開催日
16年度総会	5月19日
報告会	6月15日
JIBANKUN 研修会	3月17日

◆まちづくりセンター・研究ネットワーク

こうべまちづくりセンターの調査研究機能の一環として平成15年8月に10の研究グループが参加して発足しました。その後参加グループも増え、現在16グループの参加をいただいています。

平成16年度は通常の共催シンポジウムのほかに、こうべまちづくりセンター・ひょうごまちづくりセンターの復興街づくりセミナーのリレーシンポジウムも行いました。

共催シンポジウム開催一覧

	テーマ	日時	主催研究会
1	「まちづくり法制」を問う・パート2	4.13(火) 18:30~20:00	まちづくり法制研究会
2	インド地震/イラン地震復興の課題・パート2	4.17(土) 13:30~16:00	住宅再建・被災地復興システム研究会
3	景観法とまちづくり	4.19(月) 18:30~20:30	空間像研究会
4	第2回 景観法とまちづくり	5.31(月) 18:30~20:30	空間像研究会
5	第3回 景観法とまちづくり	7.12(月) 18:30~20:30	空間像研究会
6	元気のでるまちづくりと都市再生	7.20(火) 18:30~20:30	再開発研究会
7	韓国における新たな動向から	10.1(金) 18:30~20:30	まちづくり法制研究会
8	バリアフリー交通と都市防災	10.23(土) 13:00~15:30	NPO 法人「都市災害に備える技術者の会」
9	元気のでるまちづくりと都市再生	11.19(金) 15:00~17:00	再開発研究会
10	台湾大地震「震災からの地域産業復興」	11.27(土) 13:30~17:00	地域経済復興研究会
11	地域工業復興「新長田工業地区の再生」	12.9(木) 18:30~21:00	地域経済復興研究会
12	「台湾-神戸それぞれの震災と復興」	1.17(月) 14:00~17:00	台湾-神戸震災被災地市民交流会
13	西神ニュータウンの歴史と建設	2.10(木) 13:00~14:00	西神ニュータウン研究会
14	元気のでる都市再生とまちづくり・復興から次世代へ繋ぐまちづくり	2.10(木) 14:00~16:00	再開発研究会
15	神戸市内の都市再生	2.10(木) 16:00~17:30	(仮称)都市基盤整備研究会
16	震災後、建築基準法はどう変わったのか～安全・安心のための取り組みと課題～	2.10(木) 18:00~21:00	まちづくり法制研究会
17	水谷穎介先生13回忌記念シンポジウム/3たび、町住区をめぐって-まち住区と震災復興・都市再生・遊芸空間	2.11(金) 13:30~17:00	水谷ゼミナール
18	北京と京都 歴史都市の保存と再生について	2.11(金) 18:00~21:00	阪神白地市民まちづくり支援ネットワーク
19	新潟県中越地震から学ぶ	2.13(日) 13:30~17:00	神戸防災技術者の会(K-TEC)
20	神戸の地域まちづくり～これまでとこれから～	2.14(月) 18:00~21:00	神戸大学+まちづくりアーカイブズ研究会

※13から20は、平成16年度復興まちづくりセミナー「まちづくりセンター・研究ネットワーク特別シンポジウム」として開催

まちづくりセンターネットワーク研修会開催

平成16年度の会長団体である、こうべまちづくりセンターにおいて3月24・25日の2日間まちづくりセンターネットワークの研修会が開催されました。

まちづくりセンターネットワークとは、都市計画に関する情報交流および調査研究、まちづくり支援制度のあり方の研究、まちづくりセンターの役割・機能に関する情報交換などを目的に、全国の自治体のまちづくり部署、まちづくりセンターなどの団体により構成

され、平成11年に発足したネットワークです。

平成16年度はこうべまちづくりセンターが会長団体

となり、震災から10年をむかえた神戸のまちを見てもらい、住民主体のまちづくりについて学んでもらうために研修会を行いました。

研修会には北は札幌市役所から南は鹿児島市役所まで全国28団体44名の方が参加されました。

現地見学として、六甲道、松本・新開地、野田北部・新長田の3コースに分かれ各地区を見てもらいました。

また講演会としてまちづくり活動をされている地元住民、まちづくり専門家、こうべまちづくりセンター

職員などから講演があり、参加者との意見交換を行いました。

講演会では地元住民の方からは、震災直後から現在さらに将来に向けたまちづくり活動の取り組み、まち



現地見学（六甲道）の様子

づくりセンターには情報の核になってほしいといった話、まちづくり専門家からは、コミュニティの大切さやまち

づくり活動はみんなで手づくりで行うことが重要といった話、こうべまちづくりセンター職員からは、神戸のまちづくりの歴史や、防災や福祉・環境も含めた総合的なまちづくりについての話がありました。

参加者からは、「まちづくりにおける住民のパワー、意識の高さに驚きを感じた」「住民に対する情報提供を積極的に行う重要性を感じた」「想像以上に復興が進んでいる様子に驚いた」「まちづくり協議会の中心になっている方々が苦勞を苦勞とっておられない姿に頭が下がった」「現地見学1コースではなく全地区を見たかった」という意見がありました。

こうべまちづくりセンターとしても、今回出てきた意見や提言をもとに、さらに利用しやすいまちづくりの拠点を目指していきます。



意見交換の様子

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

4月 1日(金)～28日(木)	こうべまちづくり学校パネル展	まちづくり学校事務局
-----------------	----------------	------------

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
4月 7日(木)～12日(火)	第3回そらいろの会絵画展(油彩水彩)	そらいろの会
4月14日(木)～19日(火)	丹水会展(水彩)	丹水会
4月21日(木)～26日(火)	いくた15人会展(油彩)	いくた15人会
4月28日(木)～5月3日(火)	四季のいろどり	吉岡 正博
5月 5日(木)～10日(火)	第13回遥洋会作品展(油彩)	遥洋会

WS活動を振り返って

By 岸本 剛（まち・コミュニケーション・WS 隊）



「ワークショップとは何なのだろう？」私がまず感じたのはこれでした。

私がCPUに参加したのは、10月の後半からでした。3月後半までの5ヶ月という期限の中で、月に1回開催される定例会に出席する事以外には、何も分からない状態からのスタートでした。定例会に初めて出席した際には、他の色んなまちづくりの関係者やワークショップの先輩方が机を囲んで活動報告をされているのを見て、その緊張感が凝縮されたような空間の中、

非常に私自身が場違いな所に顔を出している気がしたのを覚えています。

定例会のプログラムが進むにつれて、実際ワークショップとは何かを学んだり、ワークショップに参加しファシリテーターとして使う技術的な手法を学んだりしていくうちに、その学びの場そのものがワークショップの1つであったと今は実感しています。

実際に参加させて頂いたワークショップでは、まち歩きが多かったのですが担当グループを先導するというよりは、むしろ参加者と一緒になって、そのまちの良さや改善点をまち歩きしながらあれこれと考えたり、私自身がワークショップを通じて勉強、発見させられる事が非常に多かったと思います。クリスマス前に夜間、北野のまちを歩いた時には、長年慣れ親しんだまちのはずなのに、そのきらびやかなイルミネーションとまちの景観に、初めて訪れた場所や以前見た時とは違うまちのすばらしさや美しさ、今までは知る由もなかったまちの作り込みの裏側を学び、再発見をさせて頂きました。

そして現在、1つだけ言える事があります。それは、ワークショップは楽しいという事です。そこには正解や不正解が無く誰もが参加出来る場があります。1つの事を誰かと一緒にするという事の楽しさ、大切さは教えられるものではなく、参加していると自然に沸き上がってくるものです。ああでもないこうでもない議論をし、迷いながらも何かを形にしたり表現したりする事で、共に創る、という事は、まちづくりの中の「まち」を構成する「ひと」、「ひと」を構成する「個」というレベルに於いても失いかけた何か大切なものを呼び起こさせるものがワークショップという1つのツールの中には存在していると私は思いました。私自身が「まちづくり」に参加する事も3月で終わりとなってしまいます。しかし、実際に現場で受け入れて頂いた事業所での活動はもとよりワークショップを含めて、さらにこの活動に魅力を感じさせてもらった様々な貴重な経験というのは、今後どのような形になるかは分かりませんが、是非とも活かしていきたいと思っています。そして、ワークショップを未だ経験した事の無い人にも、ワークショップの楽しさの共感が出来る場が今後さらなる発展と広がりを持てますよう心よりお祈り申し上げます。